



Title	デザインミュージアムの可能性
Author(s)	並木, 誠士
Citation	デザイン理論. 2019, 73, p. 111-111
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71210
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

意匠学会第60回大会 記念シンポジウム

デザインミュージアムの可能性

司 会：竹内幸絵 同志社大学
趣旨説明：並木誠士 京都工芸繊維大学
パネリスト：五十嵐太郎 東北大学
木戸英行 公益財団法人 DNP 文化振興財団
中坊壮介 京都工芸繊維大学

シンポジウム趣旨

意匠学会設立60周年を記念する大会のシンポジウムのテーマは「デザインミュージアムの可能性」です。

意匠学会の会員のほとんどが「デザイン」の領域で研究や教育、制作をおこなっています。デザインとは、現代社会においては、手の中に入るような小さなものから都市空間にまで幅広く使われる概念になっています。日本国内の大学を見るだけでも、インテリアデザインやグラフィックデザインから都市デザインや医療デザインというように20を超える「デザイン分野」があり、その幅広さを知ることができます。

そして、欧米諸国にはさまざまなデザインミュージアムが存在しています。それぞれ、教育やアーカイブなど独自の方向性を打ち出していますが、いずれにしても、デザインを「見せる」場としてミュージアムが機能しています。日本でもデザインを扱うミュージアムをつくる構想はありましたが、結局、設立には至っていません。ユニヴァーサルなデザインから各地域の伝統文化に根ざしたデザインまでを包括することはたしかに難事業です。また、日々、生み出されるさまざまなプロダクト製品やポスター類を一堂に集めることはしよせん不可能です。では、私たちはどのような方向性を模索するべきなのでしょう。

デザインのミュージアムが必要なのか、デザインとはミュージアム化することが難しいジャンルなのか、つくるとすればどのようなミュージアムが可能なのか。このシンポジウムでは、皆さんとともにそれを考えてみたいと思います。

シンポジウムでは、上記三名のゲストをお招きして、学会の外でデザイン活動、デザイン研究に携わっている視点から最先端の話題を提供していただき、議論を展開してゆきたいと思っています。
(執筆者：並木誠士)